

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300658
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム 和音
訪問調査日	平成 21 年 2 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300658
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム 和音
所在地	鹿児島県鹿屋市大浦町14169番地17号 (電話) 0994-41-3777

評価機関名	特定非営利活動法人
所在地	鹿児島市城山1丁目 16番7号
訪問調査日	平成21年2月10日 評価確定日 平成21年3月26日

【情報提供票より】21年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 2 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 6 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 14.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,286 円	他の経費(月額)	9,980 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの 償還あり 有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.7 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	せぐち整形外科 ・ 小倉記念病院 ・ おおやま歯科クリニック
---------	--------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市郊外に位置し近くには主要幹線道路が走り、大型商業施設も立ち並んでいる一方、つがひら岳の麓にあるホームの周りは杉木立に囲まれた自然豊かな場所である。広い敷地の庭は良く手入れされており、夏には近隣の方を招いて夏祭りを開くなど地域との交流も積極的に進めている。職員は和音理念にある、自然とふれあひながらその人らしくゆったりと暮らせるように支援することを心がけ、季節に応じた郷土料理作りと行事の年間計画をたて毎月実施している。また、運営母体が医療法人である為に医療連携体制も整っており、看護師による健康管理や主治医による往診、職員の介護技術のレベルアップを図るための勉強会を開くなど、利用者が元気で安心して暮らせるように配慮していることが窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価結果については職員に伝えられ、室内に緑を取り入れてはというアドバイスに、観葉植物を置いたり、玄関や門に利用者と一緒に植えたお花を置いたりしている。職員を育てる取り組みについては、運営者が毎月1回勉強会を開くなど改善に向けた取り組みが行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に渡し、一人ひとりが評価したものを基に管理者がまとめている。管理者と職員は、自己評価をケアを振り返る良い機会ととらえ、取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、利用者、家族、市職員、包括支援センター職員が参加して定期的に開催されている。事業所の運営状況、活動内容、などの報告を行い、参加者の意見交換を行っている。地域代表からは地域の行事の情報を得たり、家族からは、会議に参加されているメンバーを見てホームを皆さんが見守ってくれていることを感じて感謝の言葉を述べられた場面もある。職員はネームをつけてほしいという意見に、ケアの邪魔にならないように名前をエプロンに縫い付けるなど工夫して意見を活かした取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が年2回開催されている他、運営推進会議、面会時、電話等で意見や要望などを言ってもらえるように配慮している。意見や要望があった場合には、職員全員で共有し運営に反映させている。また、苦情相談委員を町内会役員にお願いしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の十五夜の相撲大会を観戦したり、職場体験の学生を受け入れたりしている。地域の方が3B体操の指導に毎月1回来て下さったり、近所の方が寄ってくれたり、夏はホームの庭で近隣の方を招いて夏祭りを行うなど、地域との交流に努めている。また、消防訓練にも参加してもらい日頃から地域との連携をとっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「つがひら岳の麓の自然と触れ合いながら、その人らしくゆったりと互いに手を取り合って、元気に暮らしましょう」という事業所独自の理念を開設当初より掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングの見える場所に理念を掲げ職員がいつも意識できるようにしている。自然と触れ合えるように季節に応じた郷土料理作りを行い、利用者同士が互いに交流できるように職員が間を取り持つなど理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、散歩の途中で挨拶を交わしたり、回覧板の受け渡し時にお話するなどの日常的な交流のほか、学生の職場体験の受け入れ、地域の方に3B体操の指導に来てもらったり、十五夜の相撲大会の観戦に行ったり、地域の方を招いて夏祭りを行うなど、積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施する意義については、管理者、職員とも理解しており、各自が自己評価を行いケアの振り返りの機会としている。外部評価の結果についても真摯にうけとめ、運営者が勉強会の年間計画をたてるなどの取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域代表や行政機関、利用者、家族等が参加して開催されている。事業所の運営状況、活動状況などの報告後、参加者による意見交換が行われている。地域代表者から地元の公園のお花が満開になっているので来て下さいと、お誘いを受けるなど、地域との繋がりが広がってきている。		

鹿児島県 グループホーム 和音

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、電話で相談、報告をすることで情報を交換している。また、西部包括支援センター連絡会が3～4ヶ月に1回実施され、市担当者や保健センターなどから参加し栄養指導や連絡事項など話し合いが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月ごとに発行する「和音たより」には、活動報告や行事予定、職員の異動など写真入りで作成し、利用者の日頃の様子を伝える「エプロン便り」には、個々の健康状態、介護状況などを記し家族に送付している。また、金銭を預かっている方には、毎月領収書と残高照明をコピーして送り、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催している他、意見箱の設置や運営推進会議への参加、面会時など家族の苦情、意見を表す機会を作っている。また、苦情相談委員が町内会役員であることを家族に説明している。家族からは感謝の言葉が多いが、意見や要望があった場合には、職員は共有し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動が行われることもあるが、日頃から交流することでダメージを防いでいる。新しい職員が採用された時には、個々の利用者への対応方法や利用者との馴染みの関係が作れるように、管理者が指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や介護技術研修など職員は積極的に参加し、ミーティング時には研修報告を行い共有している。法人の勉強会も毎月行われており、月1回のミーティングでは認知症についての症状別での勉強会を年間を通じて行う計画を立て、職員がそれぞれ担当し発表するようにしている。	○	運営者は毎月法人での研修会を開いたり、認知症についての症状別勉強会の計画を立てるなど、研修の機会を確保されておられるので、今後は事業所として必要な研修の年間計画を立てられると共に、職員からの意見を取り入れた研修を行うなど、工夫されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会や西部地域包括支援センター主催によるセミナー、研修会などに参加し、同業者と交流する機会を持っている。	○	今後、職員同士の交流や相互訪問の機会を作ることで、事業所だけでなく地域全体のサービスの質の向上につながる為にも、鹿屋市西部地区におけるグループホームのネットワーク構築がなされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族に見学に来てもらい、納得した上で利用を開始しているが、やむを得ずいきなりサービスを開始した場合には、家族の協力も得て面会、電話の回数を増やしてもらったり、職員の見守り、声かけを多くし信頼関係を築き早く馴染んでもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年間の行事を通して利用者から郷土料理の作り方、畑仕事での苗の植えかた、そば打ち、餅つきなど教えてもらうことが多く、職員は感謝の言葉を伝えている。利用者は、職員が記録をつけている時や帰宅時などに労いの言葉をかけてくれたり、体を気遣ってくれたりとお互いに過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に暮らし方の希望について、本人と家族の意向を把握している。入所後は日常生活を共にする中で、雑談時や散歩、レクリエーションの時などに声かけて思いの把握に努めているが、困難な方については、家族や身近な方から情報を得て本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議での利用者、家族の意見を取り入れ、毎月ミーティング時に行うケースカンファレンスで職員の意見を聞き、医師の指示などを含めた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとの見直しを行っている。緊急時や家族の要望に変更があった場合には見直しを行うなど柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして週1回、訪問看護師による健康管理を行っている。通院リハビリの送迎や家族からの希望があれば、病院受診にも同行している。また、本人の希望があれば墓参りや航空資料館への付き添いなどの特別外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、困難な場合には職員が同行することもあり、その際には事業所の介護経過の情報提供を行い適切な医療が行えるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重症化対応体制に関わる事業所の指針」を作成し家族に説明している。今までに看取りの経験もあり、家族からは「看取り同意書」をもらっている。ターミナルケアについては、職員も勉強会を行い、主治医及び看護師、家族、職員と話し合い、全員で情報、方針を共有し協力しながら行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への排泄誘導の声かけに、誇りや尊厳に配慮したケアを行うように努めている。個人情報についても、写真の掲載の確認、守秘義務など職員の意識を高め、徹底させるように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを尊重し、食事の時間や入浴の順番など一人ひとりのペースに合わせている。レクリエーションも利用者の希望するものを取り入れ、折り紙、ちぎり絵、ぞうきん縫い、カラオケなどを行い、意欲低下の利用者にも無理のないように誘導している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は週2回、自由メニューの日を設け利用者の意見や希望を取り入れている。食事の支度は利用者の力量に応じて、料理の下ごしらえ(たまねぎやじゃがいもの皮むき)、おしぼりの準備、お盆拭き、下膳、食器洗いなどを行っている。職員と利用者が和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できる体制になっているが、今の時期は週3回、月、水、金を入浴日とし午前中から夕方まで対応している。入る順番や時間について利用者の希望に沿うように支援している。入浴拒否が見られる方には、声かけの時間をずらしたり、職員を替えて声かけしたりと工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は出来ることの中から、洗濯物たたみ、調理の手伝い、掃除等の役割を分担している。レクリエーションも、利用者の趣味や希望を取り入れた楽しみごとを行っている。また、行事の年間計画を立て季節ごとの郷土料理作り、花見、ソーメン流し、足湯などに出かけて、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の買い物デーを設け、職員と一緒に買い物を楽しんだり、天気の良い日には散歩や庭でお茶を飲んだり、ドライブ、外食など戸外に出る機会を作っている。また、希望があれば墓参りや故郷訪問などの支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間に施錠するが日中はかけていない。玄関に立つとセンサーに反応しチャイムが鳴るようになっていて、外出傾向にある利用者については把握しており、必ず職員が付き合うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年に2回行われ、1回目は消防署の指導の下、町内消防関係者や近隣住民の参加協力を得て実施している。2回目は、火災報知機も設置されているが、夜間想定 of 自主訓練を行い職員の意識を高めている。		

鹿児島県 グループホーム 和音

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量については、毎食観察し記録しており、摂取量の偏りには補食も行っている。栄養のバランスについては、保健センターの栄養士よりアドバイスを受けている。個別の摂取、嚥下の状況により、刻み食や粥食にも柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が吹き抜けで明るく開放的である。リビングには、テーブル、ソファがおかれ、利用者で作った干支の牛の壁掛け、習字、日めくりカレンダーや散歩で摘んだ花を飾り、季節感を採り入れている。廊下の日当たりの良いところに椅子を並べておしゃべりするなど、居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット以外に、利用者の馴染みのもの、ダンス、ラジオ、時計、ぬいぐるみ、観葉植物などが持ち込まれ、自分で作ったきり絵や写真などが飾られている。夏は、西日対策によしずを置き、冬は乾燥対策に濡れたタオルと洗面器に水を張って置いている。		